

元ふれあいの里奥出雲公園における鳥類 — 2023 年度の調査記録 —

星野由美子*

An observation record of wild bird in the Fureainosato-Okuizumo Park in Shimane Prefecture – Observation record for 2023 –

Yumiko Hoshino *

1. はじめに

「ふれあいの里奥出雲公園」は、島根県中部に位置する県有地である。同公園は2019年から閉園となっており、現在は、関係者以外は立ち入ることができない。園内およびその周辺は中山間地特有の山と谷が入り組んだ地形となっており、さまざまな環境を好む鳥類が数多く生息している。

筆者は、同公園において繁殖期を中心に公園で生息する鳥類相を把握するとともに、当地で繁殖している可能性がある鳥類の確認を目的として、2008年から現在まで鳥類の生息調査を実施している。鳥類相については、2008年から2012年までの5カ年の調査結果を報告したが（星野ほか、2013）、その後も調査を継続しており、本報では2023年4～12月に確認された鳥類種を報告する。

2. 調査地の概要

元ふれあいの里奥出雲公園（以下、公園とする）は、島根県中部の雲南市掛合町波多にあり（図1）、森林を中心とした標高350～615 mの起伏に富んだ面積約180 haの公園である。

森林は、コナラ *Quercus serrata* やアベマキ *Quercus variabilis* を中心とした夏緑広葉樹林にアカマツ *Pinus densiflora* やスギ *Cryptomeria japonica*、ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* の針葉樹がモザイク状に混在している。また公園内を南から北西にほぼ縦断する形で流れる河川があり、上流にあたる公園入り口付近には約80 m²の貯水池がある。この池の下流側は東西の斜面から幾筋もの谷が落ち込み、水量が豊富な溪谷となって神戸川へと合流している。

本年の同地の気象状況は、公園に最も近い気象観測地点であり標高がほぼ同じ「赤名」の気象データによると、この付近の日平均気温は13.1℃、年間降水量は1,992.5mmであった。本年の最高気温は7月に34.9℃、最低気温は1月に-8.7℃を記録した。1日の最大降水量は8月に95.0mmが記録された。



図1 元ふれあいの里奥出雲公園位置図

3. 方法

調査はラインセンサス法とスポットセンサス法による基礎調査と鳥類を捕獲して行う標識調査、ならびに標識調査の際に平行して終日の観察鳥類を記録する重点調査の3通りで実施した。

調査の対象とした期間は、基礎調査を4～12月、標識調査と重点調査を5～8月に実施した。1～3月は積雪のために入園が困難となるため調査期間からは外した。

(1) 基礎調査

4～12月の8:30～12:00までの間に、1カ月に1回の頻度で約1 km/hの速度で調査ルート（図2）

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

を歩きながら、双眼鏡を用いて目視と鳴き声で確認したすべての種類と数を記録した。またルートの途中には定点を3地点定めて15分間に確認した種類と数を記録するスポットセンサスも行った。ルートから離れた定点4は、本年は実施しなかった。

(2) 標識調査

標識調査は、5～8月の間の1ヵ月に1回、それぞれ連続した4日間で行った。捕獲には、基本的に30または36メッシュのかすみ網（高さ2.5 m、長さ12 m）を用い、状況によっては61メッシュや長さ6 mの網を用いることもあった。網は、公園内の森林内部、林縁部、溪流沿いの鳥が通過しそうな場所を選び、20枚程度の使用を基本として2～3カ所に設置した。なお、本標識調査は、鳥類の捕獲や取り扱いに高度な技術をもつ複数の鳥類標識調査員を中心に実施した。

(3) 重点調査

重点調査は、標識調査の際に併せて実施し、標識作業所やかすみ網設置場所付近、またその間のルート上で、調査時間内（主に日の出1時間前から日没後1時間程度）に目視や鳴き声で確認したすべての種を記録した。

それぞれ種名の表記は、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会、2012）に従った。

4. 結 果

(1) 確認種

本年の調査において確認された全ての鳥類は10目28科57種であった（表1）。確認種リストには、環境省（2020）および鳥根県（2014）のレッドリストおよびレッドデータブックのカテゴリーならびに鳥根県における渡り区分（日本野鳥の会鳥根県支部、1997）を記載した。

渡り区分において、もっとも多く確認されたのは留鳥で28種（全確認種における割合は49.1%）で、次いで夏鳥19種（33.3%）、冬鳥5種（8.8%）、冬鳥（一部留鳥）2種（3.5%）、旅鳥2種（3.5%）、不明1種（1.2%）であった。

今回の調査における確認種を調査方法別に見ると、基礎調査では22科43種（全確認種における割合は75.4%）、重点調査では26科45種（78.9%）を確認した（表1）。目視で確認する2つの調査を合わせると28科53種となり確認種全体の93.0%となった。また、標識調査では、16科25種（同43.9%）を確認した。このうちそれぞれ1つの調査でしか確認できなかった種は13科17種あり、確認種全体の29.8%であった。基礎調査では7種（12.3%）で、カルガモ *Anas zonorhyncha*、ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*、コマドリ *Luscinia akahige*、アトリ *Fringilla montifringilla*、マヒワ *Carduelis spinus*、

ふれあいの里奥出雲公園園内図



図2 元ふれあいの里奥出雲公園内 調査ルート図

表1 2023年度に元ふれあいの里奥出雲公園で確認された鳥類

目名	科名	和名	学名	環境省 RDB	鳥獣保 RDB	区分	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		合計
							基礎	基礎	重点	基礎	重点	基礎	重点	基礎	重点	基礎	重点	基礎	重点	基礎	重点	基礎	重点	基礎	
キツキ目	キツキ科	ヤマドリ	<i>Symaticus soemmerringii</i>	留	留	留	2	2	●															6	
		カモシ	<i>Anas zonorhynchos</i>	留	留	留	2	2	●																2
カモ目	カモ科	カルガモ	<i>Anas zonorhynchos</i>	留	留	留	2	2	●																2
		ハト目	<i>Streptopelia orientalis</i>	留	留	留	2	1	●	1	●	6	●	1	●	5	11								34
ペリカソ目	ササ科	アオサキ	<i>Trogon sieboldii</i>	留	留	留	2	1	●	●	●	2	●	1	●	18									30
		アオサキ	<i>Ardea cinerea</i>	留	留	留	2	1	●	●	●	2	●	1	●	●	●								0
カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>	留	留	留	2	1	●	●	●	●	●	●	●	●									12
		ホトギス	<i>Quailus poliocephalus</i>	留	留	留	2	1	●	●	●	●	●	●	●	●	●								12
タカ目	タカ科	ハチマカ	<i>Accipiter gularis</i>	留	留	留	6	6	●	●	●	●	●	●	●	●									0
		ツミ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	留	留	留	2	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●								0
フクロウ目	フクロウ科	サシバ	<i>Bubo scandiavicus</i>	留	留	留	1	1	●	●	●	●	●	●	●	●									2
		フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	留	留	留	2	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●								2
ツツク目	ツツク科	アオハスグ	<i>Ninox scutulata</i>	留	留	留	1	1	●	●	●	●	●	●	●	●									1
		アサノボシ	<i>Halcyon coronata</i>	留	留	留	1	1	●	●	●	●	●	●	●	●	2								6
キツキ目	キツキ科	ツツクソウ	<i>Alcedo atthis</i>	留	留	留	1	1	●	●	●	●	●	●	●	●									1
		コガラ	<i>Eurostocheus orientalis</i>	留	留	留	2	7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1	●	●	●	●	●	●	●
スズメ目	スズメ科	オオカガラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	留	留	留	2	2	●	●	●	●	●	●	●	●									4
		オオカガラ	<i>Picus awokera</i>	留	留	留	2	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	3	1	●	●	●	●	●	22
カラス目	カラス科	ヤイキウ	<i>Pitta nipponia</i>	留	留	留	10	7	●	●	●	●	●	●	●	●									28
		カササギ	<i>Corvus corone</i>	留	留	留	4	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2							36
シジュウカラ科	シジュウカラ科	ハシロビヨウ	<i>Corvus corone</i>	留	留	留	1	5	●	●	●	●	●	●	●	●									30
		シジュウカラ	<i>Corvus maschiroi</i>	留	留	留	2	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	10	●	●	●	●	●	●	16
ツバメ目	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	留	留	留	2	3	●	●	●	●	●	●	●	●	2	●	●	●	●	●	●	●	12
		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	留	留	留	2	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2	●	●	●	●	●	●	12
ヒヨドリ科	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Passer montanus</i>	留	留	留	12	7	●	●	●	●	●	●	●	●	3	2	●	●	●	●	●	●	52
		ヒヨドリ	<i>Passer atter</i>	留	留	留	35	39	●	●	●	●	●	●	●	●	●	9	40	●	●	●	●	●	300
ウグイス科	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia albonota</i>	留	留	留	20	19	●	●	●	●	●	●	●	●	8	16	●	●	●	●	●	●	93
		ウグイス	<i>Urosphena squameiceps</i>	留	留	留	5	9	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5	10	●	●	●	●	●	72
エナガ科	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caedatus</i>	留	留	留	1	2	●	●	●	●	●	●	●	●									1
		エナガ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	留	留	留	1	1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1							1
ムシクシ科	ムシクシ科	ムシクシ	<i>Zosterops japonicus</i>	留	留	留	2	7	●	●	●	●	●	●	●	●	2	●	●	●	●	●	●	●	5
		ムシクシ	<i>Sitta europaea</i>	留	留	留	1	1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2							17
ヒタキ科	ヒタキ科	ヒタキ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	留	留	留	1	1	●	●	●	●	●	●	●	●									4
		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	留	留	留	1	1	●	●	●	●	●	●	●	●	4								1
スズメ科	スズメ科	コマドリ	<i>Turdus cardis</i>	留	留	留	4	1	●	●	●	●	●	●	●	●	2	●	●	●	●	●	●	●	20
		コマドリ	<i>Luscinia sibilatrix</i>	留	留	留	4	1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2	●	●	●	●	●	●	4
セキレイ科	セキレイ科	セキレイ	<i>Phoenicurus phoenicurus</i>	留	留	留	3	5	●	●	●	●	●	●	●	●	1	●	●	●	●	●	●	●	1
		セキレイ	<i>Muscicapa dauurica</i>	留	留	留	3	5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6	1	●	●	●	●	●	38
アトリ科	アトリ科	アトリ	<i>Cyanopitta cyanomelana</i>	留	留	留	2	1	●	●	●	●	●	●	●	●	2								0
		アトリ	<i>Motacilla chinensis</i>	留	留	留	2	1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	11
ホオジロ科	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Fringilla montifringilla</i>	留	留	留	9	9	●	●	●	●	●	●	●	●	1	●	●	●	●	●	●	●	226
		ホオジロ	<i>Chloris sinensis</i>	留	留	留	9	9	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1	●	●	●	●	●	●	11
ミヤマホオジロ科	ミヤマホオジロ科	ミヤマホオジロ	<i>Gardulapis sinensis</i>	留	留	留	6	5	●	●	●	●	●	●	●	●	1	●	●	●	●	●	●	●	10
		ミヤマホオジロ	<i>Eophona personata</i>	留	留	留	6	5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1	●	●	●	●	●	●	10
スズメ目	スズメ目	スズメ	<i>Emberiza rustica</i>	留	留	留	23	21	●	●	●	●	●	●	●	●	15	29	●	●	●	●	●	●	1484
		スズメ	<i>Emberiza elegans</i>	留	留	留	23	21	●	●	●	●	●	●	●	●	15	29	●	●	●	●	●	●	8
【外来種】	【外来種】	ソウシヤウ	<i>Leiothrix lutea</i>	留	留	留	13	8	●	●	●	●	●	●	●	18	5	●	●	●	●	●	●	●	205
		ソウシヤウ	<i>Leiothrix lutea</i>	留	留	留	142	137	●	●	●	●	●	●	●	●	112	64	61	111	89	151	68	276	1484
【外来種】	【外来種】	【外来種】		留	留	留	23	21	●	●	●	●	●	●	●	13	15	29	18	16	17	20	8	57	
		【外来種】		留	留	留	23	21	●	●	●	●	●	●	●	13	15	29	18	16	17	20	8	57	

カシラダカ *Emberiza rustica*, ミヤマホオジロ *Emberiza elegans*, であった。重点調査では6種(10.5%)でアオサギ *Ardea cinerea*, ハチクマ *Pernis ptilorhynchus*, フクロウ *Strix uralensis*, ブッポウソウ *Eurystomus orientalis*, ヤイロチョウ *Pitta nympha*, スズメ *Passer montanus* であった。標識調査のみで確認されたのは4種(7.0%)で、ツミ *Accipiter gularis*, オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos*, エゾムシクイ *Phylloscopus borealoides*, コルリ *Luscinia cyane* であった。

これまでの調査では13目36科100種が報告されており(星野ほか, 2013; 星野, 2021; 2022; 2023), 今回の調査では, そのうちの10目28科57種であり, 過去に報告された全種における割合は目で76.9%, 科では77.8%, 種では57.0%が確認された。本年の調査で新たに確認された種はなかった。

(2) 確認された希少種

本年の各調査において確認された環境省や鳥根県のレッドデータブック掲載種(以下, RDB種とする)は, 7科12種であった。これまでの報告では, 12科23種が確認され(星野ほか, 2013; 星野, 2021; 2022; 2023), 昨年の調査では8科13種であった(星野, 2023)。今回新たに確認されたRDB種はなかった。また, これまで確認されていたものの, 今回の調査で確認されなかったRDB種は, オシドリ *Aix galericulata*, ミゾゴイ *Gorsachius goisagi*, ヨタカ *Caprimulgus indicus*, ミサゴ *Pandion haliaetus*, ハイタカ *Accipiter nisus*, オオタカ *Accipiter gentilis*, クマタカ *Nisaetus nipalensis*, オオコノハズク *Otus lempiji*, ヤマセミ *Megaceryle lugubris*, ノビタキ *Saxicola torquatus*, ノゴマ *Luscinia calliope* の11種であった。

本年の調査によって確認された12種は次のような状況であった。

① ハチクマ *Pernis ptilorhynchus* 【国：準絶滅危惧, 県：絶滅危惧Ⅰ類】

本種は6月の重点調査において園地内の草地の上空で目視により1羽が確認された。本種の確認は, 上空を注視して観察することによって確認されることが多く, 今回の調査においても上空を意識して観察を行うことにより6月17日に飛翔する姿が目視されたものであった。

② ツミ *Accipiter gularis* 【県：情報不足】

本種は5月21日に標識調査において成鳥オス1羽が捕獲された。本個体は虹彩色の赤みが薄く橙色味を帯びていたため, 第1回夏羽の若い個体である可能性

が考えられた(図3)。標識調査においては2022年6月20日, 2021年5月16日, 2020年5月18日にそれぞれ成鳥オス1羽が捕獲されたほか, 過去にも複数回, 標識調査で捕獲された。なお, 4年間連続して成鳥オスが捕獲されているが, いずれも環境省リング等の装着はなかった。また, 過去には2008年の基礎調査中に造巢行動も観察されたが(星野ほか, 2010), 本年も繁殖の確認には至らなかった。



図3 ツミの虹彩色

③ サシバ *Butastur indicus* 【国：絶滅危惧Ⅱ類, 県：絶滅危惧Ⅰ類】

本種は6月の基礎調査, 5, 6月の重点調査で観察された。基礎調査では6月15日に調査地の草地上空の高い所を鳴きながら飛翔する1羽を確認した。重点調査では5月21~23, 6月16~19日に鳴きながら飛翔する1~3羽を確認したが, 成幼の判断はできなかった。2020年には調査地内で営巣木が確認され, 幼鳥と思われる個体を含む5羽が営巣木周辺で飛翔する姿が確認され(星野, 2021), 2022年には目視でも成鳥と幼鳥の姿が観察された(星野, 2023)が, 本年は営巣木も含めた繁殖の成功を判断できる確認はなかった。

④ フクロウ *Strix uralensis* 【県：準絶滅危惧】

毎年のように調査地内で鳴き声の確認されており, 本年も重点調査において鳴き声の確認された。鳴き声の確認されたのは, 5月22~23日および6月17日の早朝および夜間であった。

⑤ アオバズク *Ninox scutulata* 【県：準絶滅危惧】

毎年のように調査地内で鳴き声の確認されており, 本年も5~8月の基礎調査, 重点調査で確認された。

基礎調査においては6月15日に姿が観察された(図4)。重点調査においても, 6月17, 18日には林内で姿が観察され, 5~8月には鳴き声の確認された。本年は標識調査による捕獲はなかった。



図4 アオバズク

⑥ アカシヨウビン *Halcyon coromanda* 【県：絶滅危惧Ⅱ類】

本種には照度やGPSデータを記録するデータロガーを装着しているが、本年はデータロガーの回収はできなかった。5～8月の基礎調査と重点調査で鳴き声が確認され、標識調査においての捕獲数は5羽であった。

標識調査では6月18日2羽、7月22日に1羽、8月25日に2羽が捕獲された。いずれも性別不明の成鳥であった。6月18日に捕獲されたうちの1羽は、2021年7月26日に性別不明の成鳥で捕獲された個体（足環番号6A-41729）であり推定年齢3歳以上の再捕獲個体であった。2020年以降の4年ぶりの再捕獲個体となった。

⑦ ブッポウソウ *Eurystomus orientalis* 【国：絶滅危惧ⅠB類、県：絶滅危惧Ⅰ類】

本種は重点調査におい5月20日に調査地内において周辺の樹木の枝から1羽が飛び立つ姿と声が観察された。

⑧ ヤイロチョウ *Pitta nympha* 【国：絶滅危惧ⅠB類、県：絶滅危惧Ⅰ類】

本種は重点調査において6月17、19日に鳴き声が確認された。

⑨ サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* 【国：絶滅危惧Ⅱ類、県：情報不足】

本種は5～8月の基礎調査と重点調査において調査地内全域で複数個体の鳴き声が確認された。

⑩ サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata* 【県：情報不足】

本種は6月の重点調査で鳴き声と姿が確認され、標識調査においては5、6、8月に捕獲された。5月は成鳥のオス2個体、6月は成鳥メス2個体、8月は性別不明の第1回冬羽の2個体であった。いずれの個体も

再捕獲ではなかった。繁殖の兆候として、6月17日の2個体にはやや発達した抱卵斑が見られた。8月26日の2個体はいずれも当年生まれの若い個体であった。

⑪ コルリ *Luscinia cyane* 【県：情報不足】

本種は8月27日の標識調査において第1回冬羽のメスが捕獲された。

⑫ コサメビタキ *Muscicapa dauurica* 【県：情報不足】

本種は重点調査において5月23日と6月16日にさえずりが確認され、6月16～19日は姿が観察された。6月の重点調査では営巣木と思われる木の周辺でさえずりのほかに、採食行動等を行う姿が観察されていたが、巣の確認には至らなかった。また7月20日の基礎調査においてさえずりが確認された。

(3) 注目すべき種

① ジュウイチ

本種はこれまでも重点調査において毎年のように早朝に鳴き声が確認されてきた。本年も、重点調査で5月21、23日、6月18日の早朝に鳴き声が確認された。しかし、標識調査において捕獲されることは稀な鳥であり、同地での標識調査においても捕獲されたのは2015年に1羽のみであった。本年の標識調査では8年ぶりに5月23日に1羽が捕獲された。この個体は、2015年5月25日に同公園内で第1回夏羽のメスとして足環を装着された再捕獲個体（足環番号6A-32259）であった。初捕獲での推定年齢は1歳としているため、本個体の年齢は9歳以上と推定された。また、初放鳥時には赤色型の羽衣であったが（図5）、今回の捕獲時には赤色系の羽根はまったく見られなかった（図6）



図5 2015年のジュウイチ 6A-32259



図6 2023年のジュウイチ 6A-32259

なお、本種は全国的にも標識調査において再捕獲されることは稀である。

謝 辞

本年度の標識調査にあたっては、環境省鳥類標識調査員の市橋直規、安藤温子、大隅梨央、勝野史雄、古園由香、小林徹、鈴木仁、深谷治、村尾裕美、森茂晃(五十音順) および山階鳥類研究所元職員の米田重玄の各氏にご助力いただいた。また岩谷由美子および中田朋子両氏には標識調査の際に作業補助等のご協力をいただいた。土地および施設所有者である鳥根県(自然環境課)には施設利用に関してご配慮をいただいた。この場をかりて心よりお礼申し上げる。また、アカショウビンのデータロガー装着に関する研究は(公財)山階鳥類研究所の仲村昇氏との共同調査で実施した。

引用文献

星野由美子・市橋直規・中森純也(2010) ふれあいの里奥出雲公

園の鳥類相(中間報告), 鳥根県立三瓶自然館研究報告 8: 33-39.

星野由美子・市橋直規・中森純也(2013) ふれあいの里奥出雲公園の鳥類相, 鳥根県立三瓶自然館研究報告 11: 21-30.

星野由美子(2022) 元ふれあいの里奥出雲公園における鳥類—2021年度の調査記録—, 鳥根県立三瓶自然館研究報告 20: 49-54.

星野由美子(2021) 元ふれあいの里奥出雲公園における鳥類—2020年度の調査記録—, 鳥根県立三瓶自然館研究報告 19: 73-78.

星野由美子(2023) 元ふれあいの里奥出雲公園における鳥類—2022年度の調査記録—, 鳥根県立三瓶自然館研究報告 21: 51-56.

環境省(2020) 環境省レッドリスト2020 鳥類, 環境省, 東京
日本鳥学会(2000) 日本鳥類目録改訂第6版, 日本鳥学会, 345pp, 東京

日本野鳥の会鳥根県支部(1997) しまねの鳥, 日本野鳥の会鳥根県支部, 184pp, 鳥根

鳥根県(2014) 改訂しまねレッドデータブック, 鳥根県, 318pp, 鳥根